

四日市市の地場産品改良及び普及に関する研究

メンバー (◎=代表者)	◎豊福裕二(人文学部・教授) 西浦尚夫(公益財団法人四日市市文化まちづくり財団・グループリーダー／人文学部地域連携協力員)
期間	2023年4月～2024年3月
研究概要	四日市市を代表する地場産品の一つが「伊勢茶」であり、伊勢茶と相性が良く組み合わせに欠かせないのが「和菓子」です。しかし、近年、伊勢茶、和菓子とも若者離れが課題となっています。本研究は、同産品の購入者になりうる若者(大学生)に対し、和菓子の商品改良(開発)への参画を通じて伊勢茶、和菓子の理解を深めるとともに、研究成果の事業者に対するフィードバック等を実施することにより、伊勢茶等の普及に寄与することを目的とするものです。商品開発には四日市市内の和菓子店の協力を予定しており、また、その準備作業として大学生への消費実態アンケート調査や市内外の和菓子店等へのヒアリング調査を実施する予定です。

社会的インパクト評価研究会

メンバー (◎=代表者)	◎洪性旭(人文学部・准教授) 青木雅生((兼務)人文学部・教授) 濱田昌平(特定非営利活動法人Mブリッジ・代表理事) 澤卓哉(特定非営利活動法人Mブリッジ・代表理事)
期間	2023年4月～2024年3月
研究概要	本研究プロジェクトは、NPO やソーシャルビジネスなど、営利を第一義としない経済主体からなる「サードセクター」に属する組織を主な対象に、活動や事業が生み出す社会的価値を測定・評価する「社会的インパクト評価」測定方法の理解と、新たな測定指標の開発を目標としています。今年度は、前年度に引き続き、本学の青木雅生教員とNPO 法人Mブリッジの代表理事である濱田昌平氏と澤卓哉氏をプロジェクトメンバーとしてご参加いただきます。同NPO 法人の中間支援事業を事例として取り上げ、社会的インパクトや社会的インパクト評価に関する研究会を開催しつつ、社会的価値を実際に測定し、その有効性を検討します。

産官学(高大)連携地域資源循環システム研究・教育プロジェクト

メンバー (◎=代表者)	◎森久綱(人文学部・教授) 朴恵淑(人文学部・名誉教授) 三重県内高等学校
期間	2023年4月～2024年3月
研究概要	三重の文化と社会学生研究成果報告会の開催を通じて進めてきた「有機性廃棄物の飼料利用」をテーマとした三重大学生と県内高校生との研究・学習交流を推進することを目的としながらも、より実践的な学習・研究への展開とそこでの成果の発信・実践を目的に、産官学連携に基づく研究・学習会及び共同研究・調査、成果報告（従来に加えて外部報告）を行います。また、次年度以降に産業分野から社会貢献活動として外部資金の提供が検討されていることから、その受け皿としての機能を本プロジェクトが担います。